

夏休み出前講座「みんなで考えよう教育環境」結果概要

1	開催日時	平成 25 年 8 月 21 日 (水)	場 所	東桃谷幼児の園
		18時30分～20時15分	参加者	20名
	出席者	清野区長、竹沢企画調整担当課長、吉富企画調整担当係長		
2	開催日時	平成 25 年 8 月 31 日 (土)	場 所	鶴橋老人憩いの家
		15時00分～16時30分	参加者	10名
	出席者	清野区長、竹沢企画調整担当課長		
3	開催日時	平成 25 年 9 月 4 日 (水)	場 所	鶴橋幼稚園
		9時00～12時00分	参加者	15名
	出席者	清野区長、竹沢企画調整担当課長、梶屋総合企画担当課長、吉富企画調整担当係長		
4	開催日時	平成 25 年 9 月 11 日 (水)	場 所	大東幼稚園
		10時30分～12時00分	参加者	20名
	出席者	清野区長、泉企画調整担当課長代理、吉富企画調整担当係長		

【主なご意見】

学校選択制に関すること

- ・選択制が導入されれば、PTA の組織化が難しくなり、地域の学校という意識が薄れ、保護者が学校を変えていく流れが希薄になるのではないかと心配。
- ・当区の状況を見ると、選択制ではすべての課題が解決しないと感じる。
- ・選択する要素として、兄弟の通学校が大きいのではないかと。
- ・部活動によって選ぶことになるのではないかと。
- ・部活動を理由に引っ越ししてまで特定の学校に通学したいと考える保護者もいる。複数校でひとりの部活を運営するような仕組みも必要。
- ・他都市では選択制を廃止しているところもある。本市もそういった事例を参考にすべきである
- ・学校見学の機会は重要。きちんと学校から説明を受けたりしたい。
- ・区内であればどの学校でも距離的に問題ない
- ・選択制が導入されても、結局、最後は抽選で決められるのなら、きっちり再編された方がいい

学校規模に関すること

- ・区内の小規模校の数が非常に多いことに驚いた。
- ・実際に、少人数校での人間関係の固定化は問題だと感じている
- ・現状から、児童が少ないから教員の目が行き届いているから手厚い教育ができていっているわけではないと感じる。子どもの数は多い方が教育環境として望ましい。
- ・居住地の進学先小学校は入学人数が少なく、入学前に引っ越ししていく人が多いと聞く。また、上級生が下級生の世話をする仕組みが学校にあるが、人数が少ない学年の子どもに下級生の対応をさせるのは負担が大きいなど心配。
- ・わが子も、児童生徒数がある程度多い学校で、いろんな人がいるという刺激を受けて成長している

ので、そういった環境は重要。中学校まで少人数で過ごしてきて、高校生になっていきなり学年何百人という人間の中に放り込まれるのは社会性を身につける上でよくないと感じる。

- ・子どもが通学する中学校は生徒数が少なく、部活動の数も少ない。生徒数のバランスや活動内容に配慮すべき。

- ・小学校の間で最も学ばなければならないのは多様な子どもたちとの人間関係を作る能力を養うこと。学年 1 クラス、ましてや入学者が一桁の現状は問題である。

- ・子どもの数が少ない学校へは子どもをなるべく行かせたくない。
- ・子どもの数が少ない学校は統廃合してはどうか。
- ・35 人、40 人で 1 学級だときちんと子どもに目が行き届くのか心配。人数は少ない方がいいのではないか。
- ・1 学級あたりの人数が 30 人以上となるような場合は多すぎだと感じる。25 人程度が望ましいのではないか。
- ・学校が小さいからと言って全てが悪いわけではない。選択させればいいのでは。
- ・子どもの数が少なくても、近くの学校と合同で行事や活動をすればいいのではないか。

全般

- ・教育環境は大人の事情で考えるべきではない。子どもの教育や将来を見越した取組が必要。
- ・学校の環境の善し悪しは行政制度に依るよりも、保護者の意識による部分が大きいと感じている。
- ・人気校の保護者には、教育に関心の高い保護者が多く、そういった意識が学校を変えている面もある。
- ・行政で決定された制度内容でやっていくしかない。後は家庭での教育や姿勢の問題だと思う。私は区民だが、区内のどこの学校でも大差ないように思う。
- ・子どものことなので失敗は許されない。制度を頻繁かつ簡単に変更することは悪影響。
- ・行政は今後も保護者や関係者の意見を聞く姿勢を持ち続けて欲しい。
- ・小規模校のメリットやデメリットについて納得した。子どもにとってよりよい教育環境を検討して欲しい。
- ・小中学校併せて統廃合を考えて欲しい。
- ・小学校では通学距離が遠いのは問題。
- ・外から人が移り住むときに選択してもらえるような PR や仕組み（助成など）が必要ではないか。生野区の魅力は下町であることだと感じる。生野では商店街で見知らぬ住民にも声を掛けてくれる人情味は外から来た人間にとっては大変ありがたいと感じる。
- ・区長がきちんと保護者の話を聞き、回答をしてくれている姿勢がありがたいと感じる。
- ・災害時の避難場所としても学校は大切。
- ・市長や区長が変わればまた制度が変わってくるのか。子どもの将来のためにきちんと制度を考えて欲しい。
- ・町会と小学校区の区域を一致させる必要があるのか。
- ・区に人を呼び込む施策が必要。
- ・北区から引っ越してきた。母校が再編されて無くなった。寂しさもあるが、仕方ないと思っている。
- ・中学校では今でも大きな荷物をもって遠距離を通う子がいるが酷である。いっそできるだけまとめてしまい、一定距離がある生徒にはきちんと自転車通学を認めるべきである。
- ・家も買ったし簡単に引っ越しなんかできない。引っ越しできる人はいいいけど、取り残されていく

感じである。これからも生野で子どもたちを育てていこうとしている。とにかく早急に、いい教育環境を整えてほしい。

・現在、区割り案が示されているが、その結果次第で学校や制度もどうなっていくか分からない保護者の関心の中心は自分の子どものメリット。

生野区小・中学校教育環境再編方針（素案）
～未来の生野区のために、いま子どもたちにできること～

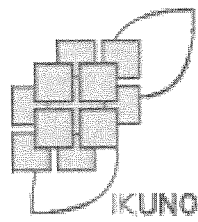
参考資料「これまでの取組経過」

大阪市生野区役所 総務課（企画調整）

〒544-8501 大阪市生野区勝山南 3-1-19

TEL 06-6715-9990

FAX 06-6717-1160



生野区

